

「折尾駅周辺の街づくり」を考えるシンポジウム（藤中氏発言）

それでは、パネルディスカッションの方に入らせて頂きたいと思います。

先程、市の折尾総合整備事務所の職員の方から、事業の概要と新しい折尾駅の改札口についてご説明頂きました。仮にですね、南口の改札口、市は、今、現行案で北口のみという形で進めているんですけども、仮に、住民の方々の要望というような形で、南口改札が出来ました場合、その場合、特に南側は、先程会場からもご指摘がありましたように、昔からの街並がありまして、堀川があり、そして、非常に人々から愛されている、現在の折尾舎もあります。そのような形のものをあえて活かすというような事も、非常に、南口の改札ができた、1つの契機として出来るのではないかなという風に考えています。

そのようなことを踏まえまして、再度、折尾駅の保存運動や活用について、実際に取り組まれたパネリストの方々、及び、直方で実際に保存等をやられていた方を交えて、ご議論頂きたいと思っております。

この議論を始めます前段といたしまして、折尾駅舎の保存活用等が、どのような形で議論がなされているのか、私の方から、簡単に一枚紙を作らせていただきました。これを踏まえた上で、各パネリストの方々に、様々な課題や問題点等をご指摘して頂きたいと思います。

ちょっと資料が多くて済みません。「折尾駅舎の保全活用等に関わる取組み概要について」という1枚紙、みなさん、資料の中から見つけられたでしょうか？

北九州市のホームページには、住民参加の街づくりという事で、おりお未来21協議会が紹介されております。ちょっと確認させてもらいます。平成21年12月に掲載されたものなんですけれども、「おりお未来21協議会は、折尾地区住民と北九州市のパートナーシップによるまちづくりの提案と実践活動を通じ、折尾地区総合整備事業を契機に、折尾地区の再生・活性化に向けたまちづくりを進め、折尾地区の発展に資することを目的に、これまで折尾のまちづくりに取り組んできた様々な団体がひとつになり、平成18年4月に設立しました。」で、平成21年時点では、会員が57名で、運営委員としましては、折尾地区自治区会連合会とか、協同組合折尾商連、折尾料飲組合など、折尾の非常に大きな組織が入っています。その中で、取り消し線が引いてあるのがあります。学園&地域交流ネットワークです。この団体は2009年、平成21年12月時点では入っていたんですけども、その後、脱退します。そこら辺についてこのネットワークから蒔田さんに登壇してもらっておりますので、いろんな経緯を説明して頂きたいと思っております。

おりお未来21協議会の下にいきまして、その主な取組み経過です。

2006年（平成18年）4月に、先ほど言いましたように、おりお未来21協議会が設立されまして、2007年5月、おりお未来21協議会に4つ専門部会が発足しました。

「歴史・建造物部会」、「商業にぎわい部会」、「街デザイン部会」、「生活・安全部会」です。

こちらの議論を踏まえて、2008年6月に、おりお未来21協議会が「折尾まちづく

りビジョン」を策定しました。このビジョンを踏まえる形で、2009年6月、北九州市とおりお未来21協議会が「折尾駅舎保全・活用基本方針」を策定しました。この冊子なんですけれども、今現在、この折尾駅舎に関しては、これがベースになっています。平成21年6月、「折尾駅舎保全・活用基本方針」、これに書かれているのが、今一番ベースとなって議論が行われております。この中では、折尾駅舎を地域のシンボルとして複製保存することを明記してありまして、地域住民が自ら維持管理から運営まで行い、管理運営費についても原則自主財源で行うというようなことで、2案の、保存活用方法を提示しています。南駅前広場で活用するのか、堀川沿いで活用する、この2案が提示されております。

そして2011年5月、先ほどの学園&地域交流ネットワークが退会します。決定に至る経緯等に疑義がある為と、かつこ書きで書いておりますけれども。その点、次の蒔田さんに色々説明して頂きたいと思います。

それから、2012年2月、今年の2月なんですけれども、先ほど、二見係長からもご説明がありました通り、おりお未来21協議会が「折尾駅舎保全・活用に関する要望書」を市とJR九州に提出し、「折尾駅舎の保全・活用には、歴史的な外観を有する建造物として、北口の方に整備される折尾地区のメインゲートを担う新駅舎での再現を望みます。」とそういう形で要望されています。

先程の「折尾ニュース」に詳しく書いておりますので、こちらの裏に書いてありますのでご参照下さい。これはあくまでも住民団体からの要望が出ている段階で、市は検討します。という、そういうスタンスです。ですから、あくまでも一番メインはこちらの平成21年5月、「折尾駅舎保全・活用基本方針」です。このような形で、取り組み概要がなされております。